



おもな記事 スズメ関連記事P2 / えこあっぷ！りぼーと「渡り鳥たちにバンディング」P3 / ぶらり訪問「村田武雄たきかわの野の花コーナー」、平成18年度事業計画P4

合い言葉は「ふるさとの自然、再発見」

「たきかわ環境フォーラム」は、自然と人をつなぎます。中空知の自然や風土についての情報を集め、わかりやすく発信します。ふるさとの自然再発見を通して、中空知の「エコアップ」をめざします。

「エコアップ」とは、エコロジカル・アップ(増自然)の意味です。どんな生き物がいたか、あるいはいるのがふさわしいのかを、きちんと調べ、エコアップの目標を立てていかなければなりません(武田忠義「えこあっぷ！宣言」、[ホームページアドレス <http://ecoup.hp.infoseek.co.jp>])

小さな感動をお裾分けします

平田剛士(たきかわ環境フォーラム代表)

春先にこの界限でも「大量死」があったと聞いていたので心配でしたが、わが家の庭に架けた赤い三角屋根の巣箱には今年もスズメの夫婦がやってきて、いま子育ての真っ最中です。親鳥は緑色の芋虫をくわえて「帰宅」すると、入り口の止まり木あたりを一瞥してから、さっと中にもぐり込みます。1分たらずに出てきたとき、さっきの芋虫はもういません。またまわりを警戒してから飛び去ったかと思うと、数分後にはもう新しい虫をくわえて戻ってきます。スズメ氏、かわいい顔をしてなかなかのハンターのよう。おまけに勤勉この上なくて、日中ずうっと獲物を巣箱に運び続けています。コーヒーをすすりながら窓越しにそれを眺めているのが、なんだか申し訳なくなるくらいです。

もちろん、いつでもチラチラ観察できるようにと、こんなふうには書斎の窓のすぐそばに巣箱を架けたの

です。架けてすぐの春から「入居者」がやってきたのはラッキーでしたが、おかげで以来、季節の移ろいを単に気温や天候からだけでなく、鳥たちからも教えてもらえるようになりました。

季節が巡るのは例年のならいですが、その変貌ぶりを「自分なりの新しい方法」で再発見したとき、少なからず感動をとまなうものです。そう気づいて、この「再発見」をいつも意識しながら暮らし始めたら、ありふれた日常の風景が俄然、オモシロク見え出しました。

少しも難しくありません。鳥たちのさえずり、魚たちが水面に作る波紋、風に乗って飛んでいく綿毛...。身近な生き物たちのそんなさやかな営みに、ほんの少し目や耳を向けるよう心がけるだけ。「新発見」は、たとえそれがささいでもともてうれしいものだから、この「常時観察姿勢」はすぐクセになります。

そんなふうにして見つけた感動は、他人にも伝えたくります。わたしたち市民グループ「たきかわ環境フォーラム」の活動は、メンバーたちのそんな思いが原点にあるかも知れませんが、感動を見つけに、ぜひ一緒にしましょう。



たきかわ環境フォーラムにご参加ください

たきかわ環境フォーラムは、滝川市の住民たちで作る市ボランティアグループです。滝川市森のかがく活動センターを拠点に、地域のみなさんと協力しながら、自然観察会や星空観望会、エコ・フットパス散策、エコカフェ、ピクニックコンサートなどを開いています。情報発信にも力を入れ、自然観察図鑑やニュースレター「えこあっぷ！」の発行、ホームページでの情報提供を行なっています。どうぞお気軽にご入会ください。

年会費 1000 円(中学生以下無料)
会員特典 ニュースレター「えこあっぷ！」をお届けします。

入会のお申し込み、お問い合わせは
フォーラム事務局

電話/ファクス 0125-24-2447

(越後弘事務局長)

電子メール PXN04427@nifty.com

ホームページアドレス

<http://ecoup.hp.infoseek.co.jp>

スズメの減少と原因不明の死骸について

日本野鳥の会滝川支部 越後 弘

支部ではバードテーブルを設置して野鳥にエサを与えている会員に2,3年前と今シーズンのスズメの飛来数を聞いた結果、滝川市内のほとんどの人は飛来数が大幅に減ったと答えています。回答表の新十津川町のSさん宅は住宅地、Kさん宅は周りが農家で2軒は2キロくらい離れています。浦臼町O1さん宅はドバトが来るようになったので、昨秋からエサやりを止めた結果です。

スズメなど小型の野鳥の寿命は、2~3年くらいと言われ、孵化したヒナの6~7割はカラスなどほかの生き物のエサになり、命を支えています。繁殖できるまで成長する

のは、ほんの僅かですがそういう状態で自然界のバランスがとれているといえます。

バードテーブルでスズメに与えるエサはパンくずのほかに「青米」と呼ばれる規格外の未熟米がほとんどで、精米をしないおつきななので農薬含有率は高いと思われます。また、ホームセンターで取り扱っている「小鳥のエサ」の中には、海外からの輸入品も含まれていると思われます。

会員の中には鳥インフルエンザ問題のあと、近所から苦情が出ると困るのでエサやりを止めた人が大勢います。今回の原因不明の減少については、他の鳥の死骸がほとんど見つからない事から、鳥イン

フルエンザの可能性は少なく寄生虫説などもありますが、さらに詳しい調査の結果を待たなければ分かりません。

また死骸を発見した人のほとんどは、そのまま放置または物陰に置いたと答え、数日後にはなくなっていたそうです。トビやネズミ、猫などが持ち去ったものと思われます。江部乙町で巣箱の中から発見されたスズメとシジュウカラの死骸は、江別市酪農学園大学獣医学部で検査してもらった結果、鳥インフルエンザは陰性とわかりました。

今回の問題について野鳥の会では、今春からのスズメの繁殖状況を詳しく調査していきたいと思っています。

エサ台へのスズメの飛来状況について

野鳥の会会員18名と元会員2名に11月~4月の様子を聞き取り調査した結果

住所	名前	例年と比べて増減	死骸の有無
幸町	T	大きな変化ない	1羽
幸町	K	70羽 0羽	なし
東町	H	10羽 2羽	なし
朝日町	I	50羽 10羽	なし
朝日町	O	30羽 2~3羽	なし
二の坂	I	50羽 3~5羽	なし
黄金町	K	30羽 10羽	1羽
滝の川	T	家の周りでも姿を見ない	1羽
緑町	T	20羽 3羽	1羽
江部乙町	N	30羽 20羽	1羽
江部乙町	O	50羽 30羽	3羽
江部乙町	K	50羽 30羽	1羽
奈井江町	I	50羽 40羽	なし
浦臼町	O1	50羽 2~3羽	なし
浦臼町	O2	大きな変化ない	なし
浦臼町	N	30羽 2~3羽	なし
歌志内市	I	家の周りでもあまり姿を見かけない	なし
新十津川町	K	大きな変化ない	なし
新十津川町	S	50羽 2~3羽	なし
留萌市塩見	S	市内全体で減少している	なし

【大町6丁目Nさん宅で1月~2月にかけて庭で15羽の死骸を発見】

は、いずれも毎年スズメが軒下などに営巣しているが、繁殖シーズンになり巣に入ったスズメが、死骸を巣外に放りだしたのと思われる。

丸加高原「自然観察の森」ハンディ図鑑をどうぞ!

北海道植樹祭(滝川市)で参加者のみなさんにプレゼントされた『丸加高原「自然観察の森」ハンディ図鑑—高原の風を見に—』は、たきかわ環境フォーラムの「自然調べ隊」が四季を通じて観察してきた丸加高原の草花や野鳥たちの愛らしい姿が、分かりやすい解説文とともに集められています。シャツの胸ポケットにも収まるコンパクトながら、全編カラー編集。草花 59種、野鳥 41種、樹木 21種を収録。本書を片手に、丸加高原を楽しんでください。



えこあっぷ！りぽーと

丸加高原で渡り鳥たちにバンディング

渡り鳥たちはどこをどんなふうの旅してくるんだろう？そんな謎を解明すべく、野鳥たちに標識(足環)をつけて追跡する「バンディング」の見学会(当フォーラム主催)が5月14日、滝川市の丸加高原「自然観察の森」で開かれました。

環境省の委託を受けた山階鳥類研究所(千葉県)が、全国のボランティア調査員(バンダー)の協力を得て進めている調査研究。同高原では4年前から毎年行なわれています。

この日はあいにくの小雨模様でしたが、10人あまりの参加者は、日本野鳥の会札幌支部副支部長でバンダーの資格を持つ猿子正彦さんから渡り鳥の習性について「伝習館」内で講義を受けた後(写真)、前夜から仕掛けておいた「カスミ網」で捕らえたアオジ、オオルリ、アカハラといった鳥たちの測定と足環装着の様子を見学しました。このうちアオジ1羽にはすでに足環がついていて、番号を読み取った猿子

さんが「3年前にこの森で放したりピーター(2度目に確認された個体)ですね」と説明すると、周囲から驚きの声が上がりました。

猿子さんは「きょう、鳥たちに新たに装着した足環のデータはすぐに山階研に送ります。世界中のバンダーと共有できるようにして、渡りルートの解明に役立てるのです」と話していました。

(写真と文・平田剛士)



日本野鳥の会札幌支部副支部長でバンダーの資格を持つ猿子正彦さん

丸加高原自然観察の森での鳥類標識調査結果

	鳥類名	2003	2004	2005	2006	再渡来
1	アカゲラ	1				
2	コルリ	5	2			1
3	クロツグミ	4	4	1		1
4	アカハラ	1	3	1	3	
5	ヤブサメ	1				
6	ウグイス	1				
7	センドイムシクイ	1	1	1	4	1
8	キビタキ	1		1	1	
9	オオルリ	1			1	
10	コサメビタキ			1	1	
11	アオジ	2	1	1	1	1
12	カワラヒワ		1			
13	ベニマシコ	1				
	合計	19	12	6	11	4

【調査日】

2003年6月21日 2004年6月26日
2005年6月4日 2006年5月14日

春の野の花をさがそう！

親子植物観察会

親子自然観察会「春の野の花をさがそう！」(主催：滝川市美術自然史館)が5月20日、滝川公園にて開催されました。

さっぽろ自然調査館の丹羽真一さん、渡辺 修さんの案内により、花の形や昆虫との関係を考えながら観察のポイントを学び、簡単な「おし葉標本」を作成しました。



感想文とイラストは、当日参加された谷口直也くんよりいただいたものです。ありがとうございました。

ぼんは、5月20日に来た自然観察会に参加した事から、エレンレイウマオオハシノエンレイウを捉えた事を見つけた事です。おし葉標本を作りました。おし葉標本は、おし葉と花の関係を学ぶのに役立ちます。おし葉標本は、おし葉と花の関係を学ぶのに役立ちます。おし葉標本は、おし葉と花の関係を学ぶのに役立ちます。

自然観察会に参加して



谷口直也

～ぶらり訪問～

森のかがく活動センター「村田武雄・たきかわの野の花コーナー」

いつも見慣れている情景も、視点を少しズラしてみると姿がガラリと一変し、フレッシュな感動を呼び起こされることがある。道ばたや草む

らでひっそり咲く野花にカメラレンズを向け、ふだん私たちが気づかない美しさを引きだそうとしたのが、滝川市の村田武雄さん。昨年暮れ

傍の一本の雑草にも固有の美しさがあり、生命がある」とのメッセージを込めた。著書『たきかわ野の花の手帖』(91年)には「野の花を愛する心は、人をいたわり敬愛する心と決して無縁ではない」と書き残している。

に亡くなった後、遺族によって市に寄贈されたその作品群がいま、滝川市森のかがく活動センターで常設展示されている。

「この展示を見てくださる大勢の人たちに身近な野花への興味を持ってもらうことができれば父も喜ぶと思います」と、長男の英俊さん。展示を見終えてセンターの外に出たら、きっと足元の小さな花たちに目を留めずにいられなくなる。

40年近くにわたって地域の植物を調べて記録・撮影してきた。

1982年に市内で開いた写真展には「路

(文と写真 平田剛士)



コーナーのオープンを喜ぶ故村田武雄氏の妻キミエさんと長男英俊さん(5月3日)



滝川市森のかがく活動センター

開館時間 5月～10月の土・日・祝日の
午後1時から5時まで

入場料 無料

住所 滝川市空知町2-6-31

電話 0125-22-3419

H18年度の活動計画

たきかわ環境フォーラムでは今年も様々な活動を予定しています。感動をみつけに一緒にしませんか？

時期	活動内容	場所	備考
6月4日	北海道植樹祭へ図鑑提供	丸加高原	丸加高原ハンディ図鑑
夏	スターウォッチング	丸加高原	対象:親子
"	夜の昆虫採集・観察会	"	"
7月16日	森のまつり	森のかがく活動センター	
秋	アメリカセンダングサ除去作業	丸加高原	外来植物の除去
通年	滝川公園・自然学習教材づくり事業	滝川公園	
"	滝川エコ・フットパス・マップの作成		財)北海道新聞野生生物基金助成事業
"	エコ・カフェ(フォーラム会員によるeco談義)	森のかがく活動センター	6/18、7/29、8/26、9/30、10/28

たきかわ環境フォーラムは滝川市(2003年度～)、財団法人北海道新聞野生生物基金(2006年度)の助成を受けています。ご支援をまことにありがとうございます。



たきかわ環境フォーラム情報誌

えこあっぷ! 第11号 2006年6月1日発行

発行 たきかわ環境フォーラム

編集 たきかわ環境フォーラム・えこあっぷ!編集委員会
深町亜紀/平田剛士

郵便番号 073-0021 北海道滝川市本町2-6-28 越後弘方
たきかわ環境フォーラム事務局 TEL0125-24-2447

各種事業については、下記のホームページでも随時ご案内しております！
ウェブサイト <http://ecoup.hp.infoseek.co.jp>

**フォーラム会員
募集中!**